

耳鼻いんこう科部長のご紹介



このたび耳鼻いんこう科部長として東京大学から着任しました岩崎真一です。主に耳の病気(難聴、中耳炎など)とめまい疾患の診療を専門にしております。耳鼻いんこう科の扱う範囲は非常に範囲が広く、耳、鼻、のど(咽喉頭)、顔面や頸部の腫瘍性疾患の治療など、脳と眼を除いた、首から上の病気の全てを担当します。名市大の耳鼻いんこう科には、それぞれの分野のエキスパートがそろっており、耳鼻いんこう科のあらゆる疾患に対応可能な体制を整えております。患者さんの立場に立って考え、より良い医療を提供出来るよう努力してまいりたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携フォーラムを開催しました



11月16日に「第8回名古屋市立大学病院地域医療連携フォーラム」を名古屋観光ホテルで開催しました。当院からは郡理事長、小椋病院長、道川医学研究科長はじめ診療科の医師71名、地域医療機関からは過去最多の164名の方にご参加いただきました。当院の肥満症治療センター、がん診療包括ケアセンター、救命救急センター、無痛分娩センターの医療提供体制、受診方法等、当院の最新医療についてご紹介させていただきました。今後も患者さんが円滑に治療を受けられるよう地域の先生方との連携を強化してまいります。各センターの受診につきましては、かかりつけの先生にご相談ください。

院内学級作品展を開催しました

12/16(月)～12/20(金)に汐路小学校院内学級作品展をアトリウムにて開催しました。院内学級の生徒たちの描いた絵画や、立体作品合計6点を展示しました。作品とあわせて生徒たちの制作の様子や工夫したところ、苦労したところも紹介されており、通りかかった方々が足を止めて生徒たちの展示をご覧になっていました。



新型コロナウイルス感染症の対策と受診について

新型コロナウイルス感染症は、風邪やインフルエンザと同様に、主に飛沫(咳やくしゃみで飛び散る唾液など)によって伝播します。病院に来院される皆様におかれましては、お一人お一人の咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。感染症対策にご協力いただきますようお願いいたします。なお、ご面会は原則お控え頂きますようお願い申し上げます。

寄附のご案内

明るい未来へ、七色の架け橋～名市大の果てしなき挑戦～ 開学70周年記念事業のご案内

名古屋市立大学では、開学70周年を機に、開学100周年を見据え、学生会館のリニューアルや各キャンパスにおける施設整備のほか、記念式典や記念誌の編さん等の記念事業を実施することといたしました。本学のさらなる発展のため、皆様からの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

70th ANNIVERSARY NAGOYA CITY UNIVERSITY

事務局総務課
Tel: (052)-853-8005
受付時間: 月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/memorial/70h.html>

開学70周年記念事業

※振込方法や免税措置など寄附金についての詳しいご案内は、HPをご覧ください。

名市大病院さくらほっとNEWS

vol.51 令和2年春号

発行/名古屋市立大学病院 発行責任者/院外広報誌編集会議(年4回発行)
〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-858-7114(経営課)

このイラストは古紙/ViVaを再生紙を使用しています。

さくらほっと NEWS

vol.51 令和2年春号



肥満症治療に関わる多職種スタッフ

肥満症治療センターを令和元年7月に開設しました.....2

耳鼻いんこう科部長のご紹介.....4

地域医療連携フォーラムを開催しました

院内学級作品展を開催しました

名市大病院のチカラ Vol.193

寄附のご案内

地域医療機関と名古屋市立大学病院の地域医療連携



*国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています

肥満症治療センターを 令和元年7月に開設しました

令和元年7月、名古屋市立大学病院に全国初の「肥満症治療センター」が設立されました。内分泌・糖尿病内科、消化器外科が中心となり、臨床栄養管理室、睡眠医療センター、精神科、看護部など多部門、多職種が力を合わせて、難治疾患である肥満症の診療に当たるためのセンターです。

「肥満」と「肥満症」の違い

「肥満」とは、体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で計算されるBMI(体格指数)が25以上のことで、身長が160cmの方であれば64kg、170cmであれば72kg以上なら該当します。肥満というだけであれば、これは病気ではありません。しかし、もし肥満に該当する方が、肥満を原因とする11の病気(糖尿病、高血圧、脂質異常、睡眠時無呼吸症候群など)の1つ以上に該当する場合は、「肥満症」と診断され、これは治療を要します。肥満度が高くなればなるほど総死亡率は上昇することから肥満症は放置できない病気です。

最近、肥満症では脂肪組織や脳に炎症があることが分かってきました。肥満症は決して単に太っているだけでも、自制心が足りないだけでもない、れっきとした病気であることが医学研究の進歩により、明確となりました。

肥満症の治療法

肥満症には、内科治療(食事療法、運動療法、行動療法、薬物療法)と外科治療(減量手術)があります。どのような病状にどの治療が合うのか、どのタイミングで減量効果のある薬を使うのか、減量手術は可能か、など治療法の選択や開始には専門的知識が必要です。また薬や手術のみならず、ご自身の減量治療への意欲が治療には必要です。

名市大病院の取り組み

肥満症治療センター受診の際は、まずは内科医が診察させて頂き、適切と考えられる治療方法をご提案します。太る原因にホルモンの病気が隠れていることもありますし、知らないうちに肥満症からくる合併症が多岐に渡ることもあります。内科医がしっかり検査し、減量が難しい方では、約2週間の減量入院をお勧めしています。減量手術をご希望の方は、経験豊富な外科医との連携で、治療計画を立てさせて頂きます。

肥満症治療の専門家チームのある医療施設は多くはありません。名市大病院には肥満症治療を専門とし、経験豊富な各分野のエキスパートが揃っています。まずは一度、紹介状を持参の上、受診頂ければと思います。名市大病院肥満症治療センターでは、皆さんの減量努力を最先端の医学とチームワークでサポートします。



田中副センター長と瀧口センター長

名古屋市立大学病院
肥満症治療センター
Center for Obesity Research and Therapeutics (CORT)
令和元年7月1日設立

“肥満症”は病気です。

“肥満症”とは 肥満(≥BMI 25kg/m²)に糖尿病、脂質異常症、高血圧、痛風、心筋梗塞、脳梗塞、脂肪肝、月経異常・不妊、睡眠時無呼吸症候群、足・腰・膝の痛み、腎臓病などを併発した病気です。治療の対象であり、治療法もあります。

肥満症の診断
合併症評価治療
内科治療 減量入院、薬物療法
外科治療 肥満外科手術

“かくれ肥満症”から“高度肥満症”まで、受診ご希望の方は名市大病院 内分泌・糖尿病内科 初診外来を受診ください。

名市大病院のチカラ Vol.19

人工透析部

腹膜透析導入を始めました！



人工透析部
濱野部長

中央診療棟4階に人工透析室があります。「人工透析」というと、腎機能が悪化したときに行われる血液透析を思い浮かべる方が多いかと思いますが、しかし、人工透析室で行なっている治療は血液透析ではありません。重症筋無力症やギランバレー症候群、類天疱瘡などの自己免疫性疾患に対して施行される血漿交換療法、潰瘍性大腸炎やクローン病などに対する白血球吸着療法、家族性高コレステロール血症や薬物療法に反応しない閉塞性動脈硬化症・巣状糸球体硬化症に対するLDL吸着療法などがあります。このように血液浄化療法は多岐に渡るため、さまざまな診療科の先生と連携を取りながら診療を行っております。

腎臓内科の診療目標は腎疾患の早期診断早期治療により、慢性腎臓病(CKD)の進行を抑制、さらには末期腎不全から透析療法への移行を阻止・抑制

することにあります。末期腎不全に至った時には腎代替療法を選択する必要があります。腎代替療法には腎移植、腹膜透析、血液透析の三つがあります。当院での血液透析は今までは月水金クールのみでしたが、今後は火木土クールも開設する予定としています。これによって、より多くの患者さんの受け入れをしてみたいです。また血液透析のほか、腹膜透析の導入や腹膜透析に週1回の血液透析を加えたハイブリッド透析も行っております。腎代替療法の選択には戸惑いも大きいかと思いますが、

私たち医療者と患者さんとで一緒に考えていきましょう。



人工透析部のメンバー

感染制御室

地域の安心・安全を守るために感染症を拡げない



感染制御室
中村室長

病院はさまざまな病気を抱えたたくさんの患者さんが入りする場所です。これらの病気の中には、いま社会的な問題になっている新型コロナウイルスのようにヒトからヒトへうつりやすい病原体による感染症が含まれています。

一方で病院には持病のため、あるいは病気の治療によって抵抗力が弱くなっていて、感染症にかかりやすく、かかると治りにくい患者さんがたくさんおみえになります。感染症にかかる患者さんを最小限にするために、私たちは感染症の予防に最大限の注意を払う必要があります。

感染制御室は感染症の連鎖を断ち切るためのさまざまな対策を考え、職員をはじめ病院に出入りするすべての方々に感染対策の必要性を理解

し、実行して頂くために活動している部門です。また感染症の治療が適切に行われるように診療の支援も行っています。感染症の制御は名市大病院の中だけで取り組んでいけばよいものではありません。近隣の医療施設などと連携し、この地域から感染症を減らすべく頑張っています。

この地域で安心して暮らすことができるよう、そして安心して病院での医療を受けて頂くために、みなさまのご理解とご協力を宜しくお願い致します。



感染制御室のメンバー